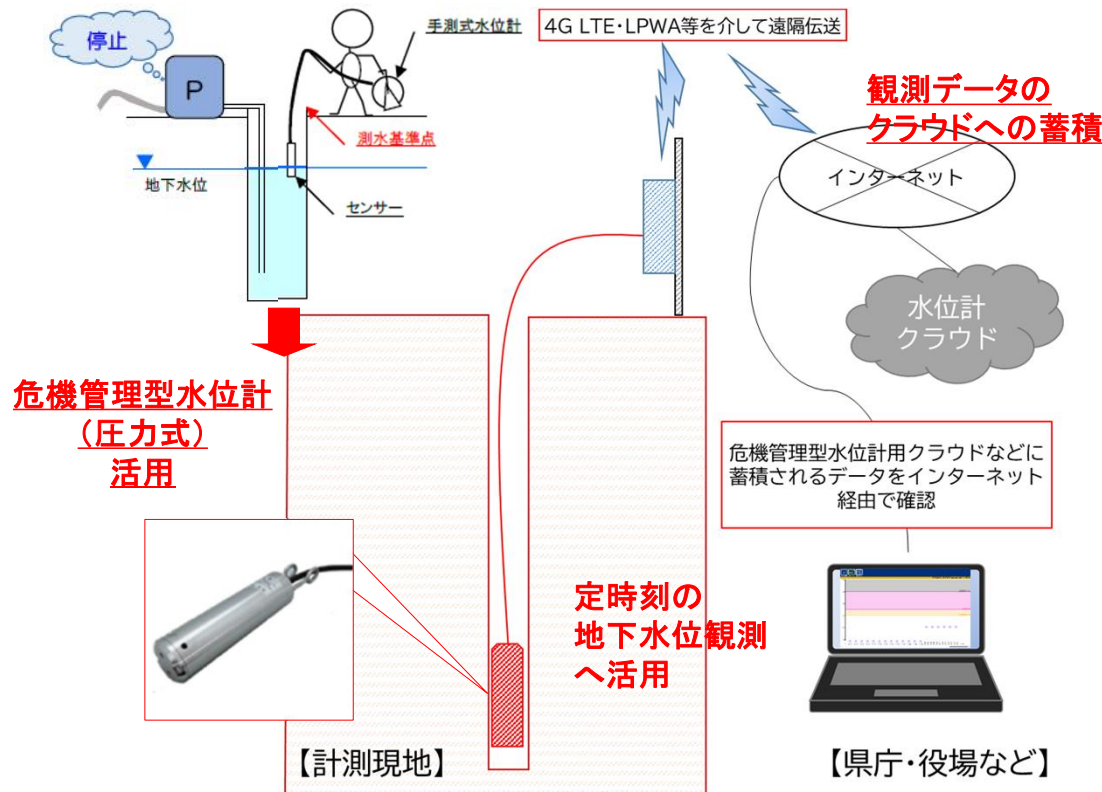


地下水観測効率化に向けた今後の検討

- 地下水の適正な保全及び利用を図るためには、地下水の実態を把握する地下水位観測を必ず行う必要があるが、地下水位計の老朽化によるデータの信頼性の低下や機器更新時における多大な費用が生じる上、観測・データ整理に要する労力等、地下水マネジメントに取り組んでいる地方公共団体として大きな負担となっている
- このため、地下水観測において、安価で汎用性のある河川危機管理型水位計の活用及び、地下水データとの連携によるタイムリーな情報共有について検討を行い、地域の安全安心の確保を図るべく、効率的で信頼性の高い地下水マネジメントの普及を図る

検討内容案

地下水位観測における危機管理型水位計の活用



[参考]河川危機管理型水位計設置例



危機管理型水位計 設置例 (七北田川水系西田中川)



危機管理型水位計 提供例 (七北田川水系西田中川)

【効果】

- 地下水観測におけるコスト縮減、省力化が図れる
- 地下水データをクラウドを介して、地下水DBと連携することにより、地下水DBの機能が発揮される
- 信頼性の高いデータをタイムリーに関係者間で共有することにより、地下水障害から地域が守られる